

熊本大学国際化推進センターニュース

The News Letter of the Center for Globalization, Kumamoto University

谷口学長、中国の交流協定校を訪問

谷口功学長は、5月3日から8日にかけて中国を訪れ、本学の交流協定校である南昌大学、上海師範大学、四川大学を訪問しました。

また、3月に日本で起きた震災への援助のお礼を述べ、日本の現状について説明するとともに、熊本大学と中国の今後の交流発展について意見交換を行いました。



【写真1】南昌大学創立90周年式典の様子



【写真2】周学長及び大学幹部との記念撮影

5月4日、谷口学長は南昌大学の創立90周年記念式典及び国際学長フォーラムに参加しました（写真1、写真2）。中国国内からの来賓、谷口学長を含む海外協定校学長、卒業生及び在校生等の総勢12,000人が見守る中、90周年記念式典が同大学スタジアムにおいて挙行されました。その後、場所を会議場に移して開催された国際学長フォーラムでは、谷口学長が基調講演を行い、本学における国際化推進の現状及び取組みを紹介しました。

今回の訪問では、南昌大学の周文斌学長及び部局長（医学院、ソフトウェア学院、国際交流学院）との面談も行い、両大学の現状および今後の交流の発展について意見を交わし、引き続き友好関係を深めていくことに合意しました。

続いて、5月6日には上海師範大学（写真3）、5月7日には四川大学（写真4）を訪問し、本学との交流発展について意見交換を行いました。

このほか、上海市では、上海交通大学及び上海理工大学も訪問しました。

熊本大学は、中国との交流を重視し、その交流規模はここ数年で特に拡大しています。例えば、中国における熊本大学の交流協定校数（大学間・部局間合計）は、2002年の11大学から2011年度には36大学に増大しました。

また、本学の海外オフィスとして、平成17年に上海オフィス、平成23年には大連オフィスが開所しました。特に、上海オフィスは、熊本県及び熊本市との共同事務所として平成23年度に発展的に再スタートする予定であり、これを記念して熊本大学フォーラムを上海で開催することも予定されています。



【写真3】上海師範大学の陸建非副学長（左から1人目）



【写真4】四川大学の石堅副学長（右）

熊本大学サマープログラム2011開講

7月5日、熊本大学サマープログラム2011が開講しました。本プログラムは平成19年度から始まり、今回で5回目を迎えました。今年は、大学の学生と協定校の学生間の交流の機会を増やす事をテーマに、プログラムを企画しました。

今年度は、プログラムの定員を昨年度から10名増やし、定員40名で海外の協定校に募集をかけたところ、中国、韓国、台湾から6校39名の参加がありました。

また、本プログラムについて学内の関心も高く、参加者の活動を支援する学生サポーターの学内からの申込みが80名を超えました。

参加した学生は、約2週間、国際化推進センターで学生サポーターと共に、日本語クラス、日本事情の講義及び文化体験等、日本や熊本大学ならではのプログラムを体験しました。



熊本城見学の様子

2011年度シリーズ留学説明会「留学のススメ！」

5月31日、全学教育棟1階多目的会議室において、国際化推進センター主催、2011年度シリーズ留学説明会第1回「留学のススメ！」を開催しました。第1回目はより多くの学生に参加してもらえるよう授業時間を避けて、昼休み時間に実施しました。

まず鳥居国際化推進センター副センター長より挨拶があり、留学することの意義や、昨今の社会における国際意識の高まり等についてお話をされました。

続いて、交換留学についての基礎情報、必要書類、留学までの手続きの流れ等の具体的な説明を国際戦略ユニットより行いました。

参加学生は、実際に今年・来年に留学を見据えている者が多く、熱心に聞き入っていました。

本説明会では今後も、留学についての様々な情報(単位認定、就職活動、TOEFLについて、帰国した先輩の話等)を発信していく予定です。

平成22年度ニューカッスル大学海外語学セミナー

熊本大学では毎年、国際対話力の向上、異文化理解、さらに長期の派遣留学等への動機付けを目的として、本学の海外協定校において海外語学セミナーを実施しています。

平成22年度もオーストラリアのニューカッスル大学において、3月19日～4月5日の約3週間、熊本大学短期語学セミナーを実施しました。ニューカッスル大学は熊本大学の協定校の中でも最も古い協定校の一つで、1986年の協定締結以来、約20年にわたる交流実績があります。

今回、定員の10名を超える、15名が参加しました。

本セミナーでは、大学での語学研修はもちろんのこと、現地の家庭に滞在することで、英会話のさらなるレベルアップを目標としました。ホームステイ先では日常生活の中で、日本とは異なる食事や習慣も体験しました。また、オーストラリアの雄大な自然も魅力の一つでした。

語学研修を受ける Language Center にはさまざまな国からの留学生がおり、授業はクラスメイトや先生とコミュニケーションを取りながら進めていくので、異文化に触れたり他国の留学生の英語力の高さや積極性に大いに刺激を受ける機会となりました。

帰国した学生達は今回の経験を生かして、国際的な視野を持つとともに、語学学習に今後一層励みたいと話していました。



平成23年度日韓共同理工系学部留学生事業協議会

7月1日、日韓共同理工系学部留学生事業協議会が、放送大学熊本学習センター3階の大講義室において開催されました。

当協議会は、日本政府及び韓国政府間の合意の下、韓国入学生の受け入れ事業を実施している全国の理工系国立大学の実務担当者が一堂に会し、相互の情報交換等を行うものです。文部科学省、韓国国立国際教育院及び韓国慶熙大学(韓国での日本語予備教育機関)の担当者により、本事業の実施経緯・実施報告等の講演も行われました。

今年は熊本大学が当番校となり、韓国側関係者5名、文部科学省等から4名及び事業を実施している34大学から72名の総勢81名に加え、熊本大学からも多くの参加者があり、盛況のうちに閉会しました。

8月28日には、韓国・ソウルで日韓プログラム選抜学生に対する推進フェアを実施予定で、1人でも多くの優秀な日韓プログラム学生が本学へ留学するよう勧誘を行うこととしています。

平成23年度前期TOEFL講座開講

6月14日、平成23年度前期TOEFL講座を開講しました。本講座は、交流協定校への交換留学等、本学学生の海外派遣を推進し、留学準備のための英語力向上を目的とした課外講座です。毎週火曜と木曜に全10回行いました。今回の受講者は22名で、皆TOEFLスコアが必要な英語圏への留学を希望している学生達でした。ネイティブの講師による授業と、毎回課される課題に、受講者は真剣に取り組んでいました。

受講者は、本講座開始前と終了後、全員TOEFL模擬テストを受験しました。また今年度末までにTOEFL本試験を受験してスコアを提出することになっており、講座を終えた後の各自の英語能力向上について確認を行います。

受講者は、本講座開始前と終了後、全員TOEFL模擬テストを受験しました。また今年度末までにTOEFL本試験を受験してスコアを提出することになっており、講座を終えた後の各自の英語能力向上について確認を行います。



授業風景



熱心に授業を聴く参加者

短期留学プログラム開講式

4月5日、日本語研修コース及び短期留学コース開講式(前期)が開催されました。

谷口学長は各コースに入学する新入留学生に対し、「体調に気をつけ、日本人の友達をたくさん作るように」と暖かい祝辞を述べました。

日本語研修コースに今回は、トンガ、ベナン、モンゴル、パプアニューギニアから4名の留学生が本学へ入学しました。これから半年間、国際化推進センターで日本語研修を受け、各研究科への進学準備をします。

短期留学コースには、今回、中国から5名、韓国から7名、計12名が本コースに入学しました。このコースに所属する学生は今後各学部にも所属し、国際化推進センター科目、教養科目及び専門科目等を各自の日本語能力や興味に合わせて学習します。



全員で記念撮影

熊本大学国際化推進センター講演会を開催

熊本大学国際化推進センターは、4月25日、フランスの日本学術振興会ストラスブール研究連絡センターから中谷陽一センター長をお招きし、講演会「最近のフランスの高等教育・研究の動向」を開催しました。

中谷センター長は、フランス・ストラスブール大学にて、化学の研究を行うとともに、日仏の学術・学生交流の発展に永年貢献されてきました。講演会には40人を超える教職員が参加し、フランスの高等教育・研究事情に関する講演に熱心に耳を傾けるとともに、活発な質疑をおこないました。

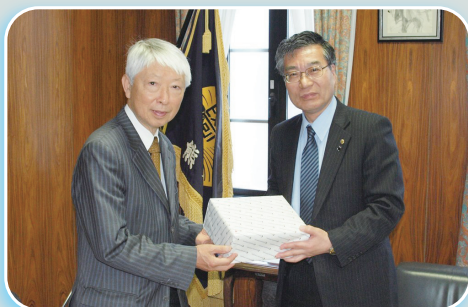
また、講演会に先立って中谷センター長は、谷口功学長を表敬訪問しました。

熊本大学は、フランスのボルドー国立電子情報高等学院及びボルドー大学連合と大学間交流協定を締結し、学生、研究者の交流を行っています。また、平成22年にはポリテックレルモンフェランが、本学の大学院自然科学研究科と部局間交流協定を新たに締結しました。

表敬訪問の中で、中谷センター長と谷口学長は、熊本大学とフランスの交流について意見交換を行い、交流をさらに発展させていくことに合意しました。



講演を行う中谷センター長



表敬訪問

平成22年度「教育の国際化推進のための海外FD研修に参加して

3月7日から18日まで、本学教員8名をアメリカのカリフォルニア州立大学フラトン校へ派遣して実施した海外FD研修について、参加者の江頭恒准教授にお話を伺いました。



大学院自然科学研究科
生命科学講座
江頭 恒准教授

■本研修で印象に残ったことは何ですか？

「教師はエンターテイナーであるという事です。黒板の前にあるひな壇は差し詰め舞台のようでした。ただここにいつまでも居座らず、舞台はいつの間にか教室全体に及びます。学生を飽きさせず授業に惹きつける技が次々に繰り出され、学生と教師の間で繰り広げられる双方向のテレビ番組のようでした。授業中にクイズあり、考えさせる課題あり、それをもとに討論あり。次第に学生が自ずと授業にのめり込んでいました。理系、文系の授業でも講義、実習でも同様です。トイレ・携帯休憩まであって学生への配慮と効率性の追求を忘れていないところ等、私は様々な点で衝撃を受けました。」

■研修成果の活用についてお聞かせ下さい。

「アメリカの学生は質問をよくするし、積極性・自主性が高いのは事実です。しかし、日本の学生にそれらが無いと諦める前に、私は彼らが設問に対してグループで考えて議論し、質問・発言するよう、研修で見てきたことを参考に実践しています。」

国立釜慶大学校(韓国)来学

5月9日、本学の大学間交流協定校である国立釜慶大学校(韓国)より国際交流院院長の鄭淵湖教授が来学し谷口学長を表敬訪問しました。

国立釜慶大学校は工学及び水産学を中心とする総合大学で韓国釜山広域市にあり、熊本大学とは2011年に大学間交流協定を締結しました。

それ以前も両大学は、国立釜慶大学校工科大学と熊本大学工学部・大学院自然科学研究科間の部局間交流協定(2000年)中心として10年以上の交流の歴史があり、今後の益々の交流発展が期待されます。



国立釜慶大学校の鄭淵湖教授(左)

記念シンポジウム「日韓における最近の憲法問題」を開催

法学部は5月28日、韓南大学校法科大学(韓国)との学術・学生交流協定更新を記念して、記念シンポジウム「日韓における最近の憲法問題」を開催しました。

当日は、「震災からの復興と憲法」(法学部 大日方信春教授)、「国立大学法人における大学の自治」(大学院法曹養成研究科 山本悦夫教授)、「韓日憲法比較分析」(韓南大学校法科大学 鄭相冀教授)の3つの報告があり、熱心な議論や意見交換が行われました。このシンポジウムに、本学及び先方の教職員・学生あわせて約50名が参加しました。



写真右から
鄭教授、山本教授、大日方教授

熊本留学生交流推進会議ウェルカムパーティ

熊本県内の高等教育機関等で構成される熊本留学生交流推進会議は、熊本県内の大学・高専に4月に入学した留学生を歓迎するウェルカムパーティを5月14日に熊本学園大学において開催しました。



本学 C3 サークルの出し物

当日はおよそ250名の県内の新入留学生、現役の留学生、日本人学生が参加し、ゲームや新入留学生紹介、各大学のサークルの出し物の披露などがあり、交流を深めました。また当日は学生サポーター多数の協力を得て開催することができました。



歓談中の学生

熊本留学生交流推進会議主催ボランティアガイド養成講座(全8回)

熊本留学生交流推進会議主催のボランティアガイド養成講座が5月28日から7月16日まで開催されました。



講義の様子

この講座は、日本語が堪能な留学生を対象に、普段生活するだけでは味わえない、熊本や日本の事についてより深く知ってもらおうと企画されました。

この講座は昨年に引き続き2回目で、今回は熊本県内の各大学、高専に在籍する留学生から21名の応募がありました。

コンベンション協会で実際にボランティアガイドを行っている講師による講義が行われ、参加者は熱心に耳を傾けていました。また、講義終了後、参加者は実際に熊本城に行き、実地研修を行いました。

講座修了後、参加者は留学生を対象とした熊本市主催のパスツアーに参加し、交流を深めました。

国際交流協定(平成23年3月~6月新規締結分)

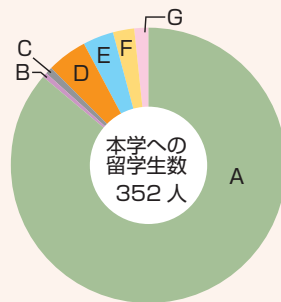
大学間/部局間	大学名	国名	学術/学生
大学間	国立釜慶大学校 Pukyong National University	韓国	学術/学生
	ソウル市立大学校 University of Seoul	韓国	学術/学生
	マカオ大学 University of Macau	中国	学術/学生
部局間	工学部 大学院自然科学研究科 チュラロンコン大学 工学部 Chulalongkorn University, Faculty of Engineering	タイ	学術/学生
	工学部 大学院自然科学研究科 仁荷大学校 工学部、工学研究科、 熱プラズマ環境技術研究センター Inha University, College of Engineering, Graduate School of Engineering, Regional Innovation Center for Environmental Technology of Thermal Plasma	韓国	学術

国際交流に関するデータ

留学生数

(平成23年5月現在)

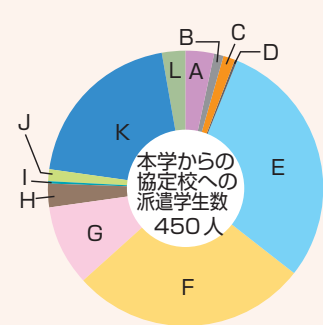
- A: アジア 304人
- B: 北アメリカ 2人
- C: 中南アメリカ 2人
- D: ヨーロッパ 17人
- E: 中近東 13人
- F: アフリカ 9人
- G: オセアニア 5人



本学からの協定校への派遣学生総数

(昭和52年度~平成22年度)

- A: 中国 16人
- B: 韓国 4人
- C: 台湾 7人
- D: ベトナム 1人
- E: アメリカ合衆国 133人
- F: イギリス 124人
- G: ドイツ 43人
- H: フランス 13人
- I: チェコ 1人
- J: トルコ 6人
- K: オーストラリア 90人
- L: ニュージーランド 12人

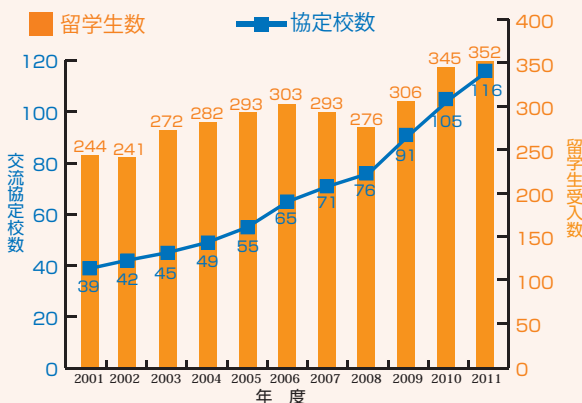


留学生受入数の推移

(平成23年5月現在)

交流協定校数

(平成23年5月現在)



本学教員の研究に伴う海外渡航数

(平成22年度)

- A: アジア 460人
- B: 北アメリカ 311人
- C: 中南アメリカ 6人
- D: ヨーロッパ 259人
- E: 中近東 28人
- F: アフリカ 13人
- G: オセアニア 39人

